

## 平成 28 年度 事業報告書

### 1. 法人の概要

設置する学校・学部・学科

国立音楽大学

音楽学部

演奏・創作学科、音楽文化デザイン学科

演奏学科、音楽文化教育学科、音楽教育学科

別科

大学院

音楽研究科

国立音楽大学附属高等学校

音楽科

普通科

国立音楽大学附属中学校

国立音楽大学附属小学校

国立音楽大学附属幼稚園

### 役員の概要

理事会

理事長 長尾達則

監事 藤瀬 學

村山利夫

理事

内野好郎

藤掛聖二

久保田慶一

古川 聰

武田忠義

吉成 順

花岡千春

大学

学長 武田忠善

副学長 神原雅之 副学長 久保田慶一

中学校、高等学校

校長 星野安彦

小学校

校長 若林茂美

幼稚園

園長 山崎信政

## 学校法人の沿革

学 校 法 人 の 沿 革 (概要)	
大正 15 年 4 月	東京高等音楽学院創立(仮校舎を東京市四谷区番衆町)。 予科、本科(声楽・器楽・作曲)、高等師範科を置く。
11 月	国立大学町(昭和 27 年、文教地区に指定される)に校舎が竣工し移転。
昭和 16 年 8 月	中等学校音楽科教員無試験検定の認可。
昭和 22 年 7 月	国立音楽学校と改称。
昭和 23 年 5 月	財団法人国立音楽学校となる。
昭和 24 年 4 月	国立音楽高等学校・国立中学校設置。
昭和 25 年 4 月	国立音楽大学設置(声楽・器楽・作曲・樂理・教育音楽)。
7 月	国立幼稚園設置。
9 月	楽器研究所附設設置。
昭和 26 年 2 月	学校法人国立音楽大学に組織変更。
4 月	別科(作曲・声楽・器楽・調律専修)設置。
昭和 27 年 7 月	附設保育科設置(幼稚園教諭養成機関として認可・1年制)。
昭和 28 年 4 月	国立音楽大学附属小学校設置。
昭和 30 年 4 月	大学に第2部を設置。
昭和 31 年 4 月	大学専攻科(作曲・器楽・声楽・樂理・教育音楽専攻)設置。保育科を改組し、幼稚園教諭養成所(幼稚園教諭養成機関として認可・2年制)とする。
昭和 35 年 2 月	幼稚園教諭養成所が各種学校となる。
昭和 37 年 4 月	別科は調律専修を除き学生募集停止。
昭和 38 年 4 月	大学教育音楽学科に幼児教育専攻を増設。
	国立音楽高等学校に普通科を増設。
昭和 41 年 4 月	大学上水台校舎(立川市柏町)で授業開始。
昭和 43 年 3 月	大学院音楽研究科(修士課程)を設置。
昭和 44 年 3 月	大学専攻科廃止。
昭和 50 年 4 月	法人本部を国立市から立川市へ移す。 附属の各校(園)名を変更し統一する。 国立音楽大学附属音楽高等学校 国立音楽大学附属中学校 国立音楽大学附属小学校 国立音楽大学附属幼稚園
昭和 51 年 4 月	音楽研究所、楽器技術センターを設置。
昭和 53 年 3 月	大学位置変更(立川市柏町)。 附属音楽高等学校・中学校位置変更(国立市西)。
昭和 54 年 6 月	大学第2部廃止。
昭和 63 年 4 月	楽器学資料館設置。
平成 2 年 4 月	大学学科名一部変更。樂理学科を音楽学学科、教育音楽学科を音楽教育学科とする。
平成 16 年 4 月	大学学科再編(演奏学科・音楽文化デザイン学科・音楽教育学科)、収容定員減及びカリキュラム改編。
平成 16 年 4 月	附属高等学校普通科の男女共学化、及び校名変更(国立音楽大学附属高等学校)。
平成 19 年 4 月	大学院音楽研究科音楽研究専攻(博士後期課程)設置。
平成 23 年 4 月	大学に演奏学科ジャズ専修を新設。
平成 23 年 5 月	大学新 1 号館竣工。
平成 26 年 4 月	大学学科再編(演奏・創作学科、音楽文化デザイン学科)、収容定員減及びカリキュラム改編。

## 2. 平成 28 年度事業の説明にあたって

平成 28 年度決算は 5 月 24 日の理事会、及び評議員会において承認されました。また監事からは、本法人の業務及び財産の状況は適切であるとの「監査報告書」が理事会及び、評議員会へ提出されました。

## 3. 平成 28 年度 事業の概要

平成 28 年度の事業内容について教育研究事業、施設の整備、財政基盤の充実と経営管理体制の強化に区分して説明いたします

### (1) 教育研究事業

#### 大 学

安全で、充実した、持続可能な教育環境の整備を目的として推進されてきたキャンパス整備計画に関しては、平成 27 年度から 2 年間にわたって、図書館、楽器学資料館、音楽研究所が設置されている 4 号館の耐震改修を行ってきました。

図書館については、平成 28 年 11 月に全館リニューアルオープンし、多様な学修やイベントができるライブラリーホール、授業や学生生活に密着した図書やパソコンの利用ができるスタディルームが誕生しました。参考図書フロア、AV フロアも新しく生まれ変わり、授業の空き時間などに、学生の学修と憩いの場となっています。

楽器学資料館も 1 階にフロアを移し、展示室（床面積 442 m<sup>2</sup>）、収蔵庫、工房、スタジオ、事務室が完備する新施設となりました。

教育改革の第 2 ステージとして行われた、カリキュラム改編も 3 年目を迎え、3 年次からのコース制に、コミュニティ音楽コースや鍵盤楽器技術コースなど新たなコースも加わり、一層充実したものとなって、大きな教育的成果を上げております。

本学の教育内容をより広く周知し一層の受験生を獲得すべく、広報の充実を図る組織として、広報センターを立ち上げました。ホームページのリニューアルのほか、従来から行っている進学ガイダンス、オープンキャンパス、授業公開、受験準備講習会、ワークショップなどを、中学生・高校生、音楽大学に興味のある方に、気軽に本学を体験していただぐための一連のプログラム「くにたちプレカレッジ」と位置づけ、内容の充実を図りました。ワークショップはこれまで、吹奏楽とオーケストラで開催してきましたが、新たに声楽ワークショップとピアノフェスティバルを実施しました。

入試では、指定校推薦入試の人数枠の見直しを行ったほか、新たに自己推薦入試（AO 入試）および 3 年次編入試験を導入しました。自己推薦入試は、音楽文化教育学科を志望する方を対象に、これまでの学業や音楽活動、これから学びに対する意欲・計画などを多面的・総合的に審査し、より意欲的・積極的な学生を受け入れることを目的としています。

キャリアカウンセラーによる充実したキャリア・就職支援のほか、臨床心理士や精神科医によるカウンセリング、学習支援センターでの教員による面談など、学生相談のさまざまな場を引き続き提供しました。今年度からは、学科系の教員によるオフィス・アワーも制度化されました。

障害のある学生への支援に関する方針を定め、適切な修学支援を行いました。

演奏教育の成果として実施する定期演奏会に、オーケストラでは 7 月に尾高忠明先生、12 月に梅田俊明先生、プラスオルケスターでは F・ブーランジェ先生、シンフォニック ウィンド アンサンブルでは M・スキヤッタディ先生をお迎えし、客演指揮をお願いしました。

平成 26 年から 3 年間にわたり、「伝統と未来～アジアをはじめとした国際交流に向けて」をテーマに、様々な 90 周年記念事業を展開してきました。

演奏会としては、最後の年にふさわしく、6 月に準・メルクル指揮、本学オーケストラ・合唱団による創立 90 周年記念「特別記念演奏会」で、ベートーヴェン／交響曲第 9 番「合唱付」を演奏しました。

固有の様々な音楽文化をもちつつ、西洋音楽の教育・研究を推進するという共通課題をもったアジア諸国の音楽系大学 4 大学を招いて、11 月に「アジア音楽大学学長会議 2016」（シンポジウム「グローバル社会におけるアジアの音楽大学の社会的役割について」およびコンサート）を開催し、共同宣言を掲げました。

平成 27 年度の自己点検・評価にもとづき、公益財団法人大学基準協会による認証評価を受け、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。特に、学生支援体制と社会貢献活動の項目で高い評価を受けました。

### 大学院

大学院オペラは指揮者に秋山和慶氏をお迎えし、例年通りモーツアルト作品である「ドン・ジョヴァンニ」を上演し、好評を博しました。

修士課程では、長期履修制度を導入し、多様な学生に対応できる体制を整えました。

博士後期課程では、論文指導担当教員を拡大し、年度末には 4 名の博士号取得者を輩出しました。

### 附属中学校・高等学校

#### 附属各校共通

平成 28 年度は新入生 282 名（幼稚園 27 名・小学校 41 名・中学校 70 名・高校普通科 64 名・高校音楽科 80 名）を迎えるスタートしました。

昨今の少子化問題等、厳しい環境下にあって入学者数が年々減少傾向にある中、附属校

改革に取り組む初年度として幼稚園及び高等学校にて改革施策の実施に着手しました。

今後、幼小中高と繋がる一貫校としての強みを策定して、魅力ある附属校へと変革してまいります。

なお、今般の附属改革について学校説明会等の場で説明してきたところ来年度の新入生は今年度比 36 名増の 318 名とすることができます。

### 附属中学校、高等学校

#### **「高校普通科を特別進学コースと総合進学コースの 2 コース制へ」**

平成 29 年度から高校普通科に特進クラス 1 クラス、総合進学コース 2 クラスの 2 コース 3 クラス制を導入し、生徒の学力に応じたクラス編成として学力の一層の向上に取り組み難関大学合格者増を目指していくこととしました。そのための具体的取り組みとしては、実績の高い外部コンサルタントの協力のもと、カリキュラムを見直すとともに、アフタースクールを開設して更なる受験対策を強化致しました。

#### **「音楽科のカリキュラムの見直し」**

音楽教育者から演奏家までを目指す幅広い生徒の中で、それぞれの音楽習熟度に見合った教育を施すため、カリキュラムを見直しレベルの全体的底上げを図っていくこととしました。

#### **「受験者数の拡大確保のための音楽教室開設にむけ準備を開始」**

従来実施してきました KUNION 講座は音中コースのみとして、それに代わる音楽教室を 29 年度開設すべく準備を開始しました。小中高の入学者の拡大に向け、幼稚園年長から中学 3 年生までを対象として、低廉な受講料で質の高い教育を施し小中高への受験生増加に結び付けていきます。また、在校生のスキルアップに向けたアフタースクールとしても活用していきます。

#### **「各種演奏会の開催」**

首都圏音楽高校から選出された演奏者をお迎えした「招待演奏会」は一橋大学兼松講堂にて第 12 回を迎える、各校の演奏者たちの日々のレッスンによる完成度の高い演奏が披露されました。

本校オーケストラは「ソリスト・コンサート」「定期演奏会」をはじめ、12 月には「ぐにたち音楽会」を開催しました。

#### **「公開レッスンの開催」**

本年度の公開レッスンは国立音楽大学教授のピアニストの花岡千春先生による公開レッスンをはじめ、海外からはオランダのピアニストのウィレム・ブロンズ先生、ウィーン・

フィルハーモニー交響楽団ファゴット奏者であるミハエル・ウエルバ先生によるオーケストラ指導とファゴットレッスンが開催され、またリンツ音楽大学で教鞭をとらえている声楽家のアンナ・マリア・パーマー女史による声楽レッスンが行われました。

#### 「様々な分野での地域交流を推進」

音楽科生徒会主催による「地域謝恩コンサート」をはじめ、「大学通りイルミネーション点灯式」、「国際医療研究センター」「立川病院」への訪問演奏、またJR東日本とのコラボライブ「特急あづさ50周年記念スペシャルライブ」を国立駅舎内で開催しました。

今年度の特筆すべき活動としては中学合唱部がTV朝日のミュージックステーションへ出演し歌手のMIWAさんと競演、また夏の高校野球東京都予選開会式（神宮球場）において本校音楽科2年窪田有紗さんが265チームの高校球児の前で君が代を独唱するという様々な分野での活動が行われ大変好評を博しました。

#### 「海外交流に向けて」

海外交流の活発化に向けて、校内でホームステイバンクへの登録をお願いしたところ、12組のご家庭にご協力をいただきました。今後海外留学とともに留学生の受け入れにも積極的に取り組んでいきます。

#### 附属小学校

#### 「教育内容の充実」

台湾の台北市私立復興小学校との異文化交流を実施し児童たちに新しい経験をしてもらい視野を広めるとともに全校行事として開催している音楽会では児童が表現する楽しさや喜びを感じ、意欲的に取り組もうとする気持ちを育むことができました。

また、本校の特色である音楽教育の6年間の集大成として3月に卒業演奏発表会を開催し、ピアノ、ギター、ヴァイオリンの独奏やピアノ連弾、ヴァイオリン二重奏、クラス単位での合奏など素晴らしい力を發揮することができました。

英語教育においては専科専任の教諭を中心に授業の改善やカリキュラムの見直しを進めスカイプを活用したオーストラリアのクレイトンノーススクールとの交流授業を開始する等、授業内容の充実を図りました。

教科研究では「表現できる子供の育成」をテーマに4教科で研究授業を行い、教材理解・児童指導技術・授業力のアップ等、効果的な指導法の向上に取り組みました。

#### 「生活指導の徹底」

生活指導に向けての手引きとして作成した「音小新しい仲間手帳」をわかば会（PTA）総会にて保護者の方々へ説明し、学校と家庭との共通理解を図り指導の徹底を行いました。

また、学期ごとに「音小っこ」を発行して登下校中の児童の安全と公共交通機関で

のマナーについて指導の徹底を図り、さらには登下校時には教員が通学指導にあたっています。

### 「広報活動の活発化」

学校説明会のあり方、学校要覧、ホームページ、学校紹介用 DVD 等の広報について改善を図りました。学校広報としては附属幼稚園をはじめ幼児教室への広報活動を積極的に行うとともに、学校説明会、見学会、ミニコンサート、講演会、プレスクール、公開授業といった様々な角度から小学校の広報活動を活発に行いました。結果、受験者数を対前年で大幅に増加させることができました。

### 附属幼稚園

#### 「保育内容の充実と新たな取り組み」

初代園長の小林宗作が唱えた総合リズム教育の理念を基本に園児が様々な体験を積み重ねて豊かな経験が持てるよう教職員が研鑽を重ね、保育の充実に取り組んでいます。

また 3 つの新たな取り組みを開始しました。①保護者ニーズに応えるため、「預かり保育」を保育終了後から 16 時 30 分まで開始しました。多い日では 20 名以上の希望者があり、保護者にとって園児を安心して預けられる場となっております。②園児向けのピアノとヴァイオリンの音楽教室を 5 月から開講しました。小中高の先生方を講師に招き、すでに 30 名近い園児が受講しており、音大附属幼稚園ならではの教室として好評を博しております。③9 月から外部専門業者による給食を開始しました。多忙な保護者の方々にとっていつでも利用できるようになりました。

#### 「施設整備の実施」

屋上のプールやミニ菜園に通じる階段の経年劣化にたいし、園児の安全面を第一に改修工事を実施しました。また、固定式ロッカーを新たなものへと増設しました。

#### 「大学、附属各校との連携」

大学幼児教育専攻学生の実習受け入れは勿論のこと、幼児理解の研鑽や教育研究のためにも大学生を受け入れました。また、8 月と 9 月には附属中高の生徒と園児の交流の場を設け学びの機会といたしました。さらには附属小学校とは、独楽大会や学校見学等の交流の場を持つという各校との連携を活発に進めて参りました。

#### 「地域貢献活動」

子育て支援事業として地域の子育てをしている方々に対して園庭を解放するとともに、親子リトミック、親子制作遊び、夏冬の親子コンサートを開催しました。特に夏のコンサートでは今年度から開始した課外レッスンの先生方による演奏をしていただき親、子ども

## (2) 施設の整備

- ・大学4号館の耐震補強及びリニューアル事業の第2期工事は、1階の楽器学資料館展示フロアとスタジオ、2階の図書館フロア、そして5階の音楽研究所エリアの工事が終了しました。平成27年度の第1期工事と併せて、この度の工事が全て完了したことにより、4号館全体がリニューアルしました。
- ・大学2号館の空調設備を更新して、単独空調にしました。
- ・建設から34年経過した講堂の受変電設備の更新工事を行いました。

## (3) 財政基盤の充実と経営管理体制の強化

### ・キャンパス整備計画と財務状況

新1号館の建設をはじめとするキャンパス整備計画は、大学4号館改修工事の終了に伴い既存施設の耐震補強及びリニューアル工事は完了しました。今後はキャンパス整備計画の集大成として、大学1号館を解体して食堂及び学生ホール等の機能を有した7号館を建設する予定です。キャンパス整備に関する支出が続く中で、基本金組入前収支差額は昨年に引き続き支出超過となりました。支出超過の要因は、学生数の減少に伴う納付金及び経常費補助金の収入減ですが、業務委託費の見直しなど経常的な費用の削減に努めています。

なお、キャンパス整備に関わる資金は全て自己資金で貯っています。平成28年度のキャッシュフローは4号館改修工事費の支払により前年比マイナスとなりましたが、平成26年度までの過去3年間のキャッシュフローはプラスであることから、依然として高い資金量を確保しています。

### ・寄付金事業の推進

平成28年度は4号館リニューアル事業募金の2年目として、多くの方々からご支援をいただき、2年間の合計で44百万円を受入れました。平成29年度は新たに7号館建設募金を立ち上げる予定です。

### ・内部監査の実施

内部管理体制強化の観点から内部監査を行いました。対象部門はメディアセンター事務室と学生支援課でした。また、前年度に監査対象となった部署へのフォローアップ監査も実施しました。

## 4. 平成28年度決算及び財務の概要

平成27年度から学校法人会計基準が改訂され、新たな計算書様式が適用されました。主な計算書は資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表から構成されています。事業活動収支計算書は収支状況を活動区分別に示し、経常的な収支と臨時的な収支に大別しています。活動区分別の収支状況を確認する上で重要な役割を果たすもの

ですので、事業活動収支計算書の概要から説明します。

なお、金額は十万円単位を四捨五入して百万円単位で表示します。

## 1. 事業活動収支計算書

### (1) 教育活動収支

#### (収入の部)

「学生生徒等納付金」は 40 億 20 百万円で、予算比 69 百万円減少しました。前年実績比では 2 億 47 百万円減少し、主な要因は大学（大学院等含む）で 2 億 38 百万円減少したことによります。前年実績比では中高で 6 百万円増額し、小学校で 17 百万円減少しました。また、幼稚園は 1 百万円増額しました。

「経常費等補助金」は 7 億 14 百万円で、予算比 13 百万円減少しました。内訳は国庫補助金 2 億 65 百万円、地方（主に東京都）補助金 4 億 49 百万円です。

「付随事業収入」は 34 百万円で、寮や受験準備講習会などの補助活動収入と本学主催の演奏会収入に区分されています。

「雑収入」1 億 65 百万円で、主に私立大学退職金財団などからの退職交付金収入です。

以上、教育活動収入の合計は 49 億 89 百万円で、学生生徒等納付金の占める割合は 80.6 % になっています。

#### (支出の部)

「人件費」は 34 億 17 百万円で、当初予算を超過したことから予備費を 55 百万使用しました。予算超過の要因は主に自己退職者への退職金です。人件費の内、教職員人件費は 32 億 19 百万円で前年実績比 1 億 5 百万円減少しました。

「教育研究経費」17 億 76 百万円で、耐震改修工事を進めている関係で減価償却費は増加しましたが、その他の項目は前年実績比で 19 百万円減少しました。主な減少要因は報酬委託手数料の業務委託費、光熱水費等の減少によるものです。

「管理経費」は 3 億 47 百万円で、当初予算に比べて報酬委託手数料等が増加したことから予備費を 27 百万円使用しました。前年実績比では 26 百万円増加しました。

以上、教育活動支出の合計は 55 億 42 百万円となり、教育活動収支差額は 5 億 53 百万円の支出超過になりました。

### (2) 教育活動外収支

主な収入は受取利息の 79 百万円です。

以上、教育活動収支と教育活動外収支を合算した経常収支差額は 4 億 73 百万円の支出超過となりました。

### (3) 特別収支

主な収入は、施設設備寄付金として 4 号館リニューアル募金 19 百万円、施設設備補助金として 4 号館耐震補助金の 1 億 67 百万円など、合計で 1 億 88 百万円となります。

また、支出は図書などの除却に伴う処分差額 10 百万円です。

以上、特別収支差額は 1 億 84 百万円の収入超過となりました。

#### ＜基本金組入前収支差額＞

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前収支差額は 2 億 89 百万円の支出超過となりました。前年度の決算額に比較すると、納付金の減少と退職金の増加により支出超過額が増加しました。

#### ＜基本金組入額＞

4 号館耐震改修工事の約 13 億円、大学 2 号館の空調改修などにより組入額は 14 億 13 百万円になりました。

#### ＜当年度収支差額及び翌年度繰越収支差額＞

以上の結果から当年度収支差額は 17 億 2 百万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は 49 億 72 百万円の支出超過になりました。

### 2. 資金収支計算書

資金収支計算書は法人全体の資金の出入りを示したもので、事業活動収支計算書と重複する内容を除き、主な内訳は次の通りです。

#### (収入の部)

「資産売却収入」23 億 7 百万円は、主に国債と社債の満期償還に伴う受入れ収入です。

「前受金収入」8 億 3 百万円は、平成 29 年度の計上となる納付金収入などを平成 28 年度内に受入れた額です。

「その他の収入」3 億 88 百万円は、前期の未収入金受入れ額などです。

「資金収入調整勘定」は、当期に実際の資金収入がない期末未収入金などの調整項目です。

#### (支出の部)

「施設関係支出」13 億 20 百万円は、4 号館改修工事（第 2 期分）と大学 2 号館空調改修工事費用などが主な内訳です。

「資産運用支出」28 億 10 百万円は、国債等の満期償還分をもとに、学校法人として許容可能な範囲で運用益の増加を目指して劣後債や仕組債を購入したものです。

「その他の支出」2 億 71 百万円は、前年度未払金の支払額や仮払金などの支払額です。

「資金支出調整勘定」は、当期に実際の資金支出がない未払金などの調整項目です。

以上、当期の資金収入と資金支出をまとめると、次年度繰越資金は 36 億 25 百万円となりました。

### 3. 貸借対照表

資金収支計算書、事業活動収支計算書をもとに平成 28 年度末の資産、負債及び純資産を示しています。資産合計は前年度に比べて 3 億 10 百万円減少しました。内訳は固定資産が 10 億 57 百万円増加し、流動資産が 13 億 67 百万円減少しました。また、負債は 22 百万円減少し、純資産（基本金及び翌年度支出超過額）は 2 億 89 百万円減少しました。注記欄は基準に従って所定事項を記載しています。

資料 1：事業活動収支の推移

(百万円)

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
①事業活動収入計	6,079	5,584	5,486	5,263
②事業活動支出計	5,760	5,726	5,590	5,552
③経常収支差額	△ 4	△ 188	△ 262	△473
④基本金組入前当年度収支差額	319	△142	△ 104	△289
⑤基本金組入額	△ 3	△ 463	144	△1,413
⑥当年度収支差額	316	△605	△ 248	△1,702
⑦前年度繰越額	△ 3,462	△ 2,891	△ 3,496	△3,744
⑧基本金取崩額	0	0	0	474
⑨翌年度繰越額	△ 2,891	△ 3,496	△ 3,744	△4,972

(注)平成 26 年度以前のデータは、学校法人会計基準改正後のデータに置き換えています。

資料 2：学生、生徒数の推移

(名)

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年 比	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比
大 学 院	75	△3	78	+3	84	+6	89	+5
学 部	1,827	△38	1,765	△65	1,680	△85	1,563	△117
別 科	7	△ 2	6	△1	5	△1	3	△2
高 校	音楽科	276	△14	265	△11	229	△36	221
	普通科	136	+10	149	+13	165	+16	175
	( 計 )	(412)	△ 4	(414)	+2	(394)	△20	(396)
中 学 校	203	△ 16	193	△10	204	+11	209	+5
小 学 校	395	△ 30	360	△35	336	△24	305	△31
幼 稚 園	88	△5	82	△6	86	+4	88	+2
合 計	3,007	△ 98	2,898	△112	2,789	△109	2,653	△136